

# 歴史探訪

## クラブ 其の197

History Inquiry Club



文化財課 ☎22-1720  
(博物館) FAX 22-2028

### 上巳の節句 (桃の節句) ・ ひな祭り

季節は弥生三月。三月といえば、特に女の子は「ひな祭り」を思い浮かべる人も多いのではないのでしょうか。現に、渥美郷土資料館や田原市博物館では「ひな祭り展」「ひな人形と初風展」など、市内でも各所でひな祭りに関連するイベントが開催されています。

元々ひな祭りは、古代中国で桃の節句である「上巳」に川でけがれを

清め、桃のお酒を飲む行事でした。桃は、一本の木に実をたくさん付けることから強い生命力の象徴とされ、その香りには厄よけの力があると考えられていました。一方、日本でも三月の初めに紙や草木で作った「ひとがた」に災いやけがれを託し、川に流すという信仰があり、これに平安時代に貴族の女の子の人形遊びだった「ひいな遊び」が結び付いて、ひな祭りの原型となりました。今のようにひな人形を飾るようになったのは、室町時代以降で、これが庶民の間で広まったのは、江戸時代後半とされています。

この地域でのひな人形は、江戸・明治年間を通して、一般的には土人形がひな祭りの主役でした。そして明治の中頃から男びなと女びなが一對の内裏ひな人形として普及し始め、大正の末頃から御殿を中心に入



●「土人形(天神)」 明治～昭和初期

形を飾る御殿飾りひな人形に交代していきました。以降、昭和30年代までは、この御殿飾りが人々に支持されてきました。しかし、昭和30年代後半に入ると人形が大きくなり御殿に代わって屏風を置く「屏風段飾りひな人形」となり、今日までその流れは続いています。という移り変わ

りの流れは、他の地域とあまり大差はないのですが、女の子のお祭りと言われるひな祭りを男の子も「初天神」といって天神様を送って祝う習慣がこの地域にはあるのです。私たちにとっては、ひな祭りの時に、女の子は「ひな人形」、男の子は「天神様」を飾るといことは当たり前なのですが、県内でも西三河や尾張の人たちからすると珍しいことだそうです。

天神とは、学問の神様として知られる菅原道真のことです。この菅原道真は、平安時代に生まれ、大変に優秀で醍醐天皇の時に右大臣となりましたが、それを妬む藤原時平らにより九州の大宰府に左遷され、失意のうちにその地で亡くなり、その恨みから



●「雛祭(ガンド打ち)」松下石人著「三州奥郡風俗図絵」(昭和11年) 国書刊行会復刻本より

不吉なことが都で相次いだため、天神としてまつられることになった人物で、その後、道真が歌や学問に優れていたことから学問の神様として信仰されるようになりました。また、市内には端午の節句のころに五月人形などの他に、凧を贈る風習(探訪クラブ其の189参照)もあります。少し時代遅れの考え方もありませんが、男の子は家を後継する跡継ぎとしてそれだけ大切にされてきたということかもしれません。少しづつ時代に合わせて変化していく風習ですが、ひな祭り当日に袋を持った近所の子どもたちが集まって「ガンド打ち」といって初節句の家にはひな菓子をもらい歩く光景も今では見られなくなりました。(天野)